



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第52巻第
2号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第52巻第2号). 泌尿器科紀要 2006, 52(2): 166-166

ISSUE DATE:

2006-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113777>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

論文のねつ造疑惑で韓国と日本が揺れている。我々が関連する生命科学分野であり、それぞれの国を代表する伝統のある大学の有名教授が関わっている。

今まで誰も知らなかった事実を証明した時、科学者は金メダルを取ったオリンピック選手のような気持ちになるのだろう。しかし、見識ある科学者ほど、公表にあたってはそれが真実かどうか大きな不安に駆られる。特にその発見が社会に大きな影響を及ぼす可能性がある場合はなおさらだろう。

学術論文は基本的に科学者の良心を前提にしている。査読者にはその虚偽を明らかにすることなど出来るはずがない。嘘データをでっちあげることなどは論外ではあるが、その研究内容の倫理性や結果がもたらす社会的インパクトを含め、これからは科学者の見識や良心がさらに試される時代になる。

大学院生の時に書いた初めての論文「第3染色体短腕の欠失は淡明細胞腎癌に特徴的である」は、私にとって思い入れの深い論文である。実験の正確さには自信があったが、その後数年はそれに反論する論文が出ないかどうか不安な日々を過ごした(幸い、それは現在事実として認められている)。外科医と科学者は臆病のほうが多いさそうである。

(小川 修)